

第6学年 英語活動案

1. 題材 行きたい国はどこですか？

2. 本活動設定の理由

○ こんな児童だから

本学級の児童は、英語活動に取り組んで3年目をむかえる。6月末のアンケート調査によると、英語活動を楽しんでいると感じている児童の割合は89%にのぼり、正しい発音や意味が分かり、使えたときに特に楽しさを感じているようである。さらに、「もっと聞く時間を増やしてほしい」「発音をゆっくと分かりやすく教えてほしい」というもっと正しく知りたい・しっかりと分かりたいという高学年特有の意欲も高まってきているところである。

○ こんなトピックで

このような時期の児童にとって、これまでの活動そのものの構成を「聞く」活動を中心にすえて見直し、児童の興味・関心の方向性を探り、実践の場を想定して実際に「使える」英語に触れる本題材は価値あるものであると考えられる。本題材では、ALTやGTの出身国の紹介を導入に位置づけ、「どこから来たのか」「どんな国なのか」等の興味・関心をもとに「聞く活動」を意識化し、活動の工夫を行なっていく。このことにより、児童は「自分の行きたい国はここだ」「友達の行きたい国はどこなんだろう」と、話したい・聞きたい意欲が高まり、「自分から進んで話そうとする」児童の育成につながっていくものだと考える。

○ こんな「聞く活動」の工夫で

児童が、話してみたい・伝え合いたいという、「コミュニケーションへの意欲」をもつことができるように、3つのステップを設定し、その中で、下記のような活動の工夫を行っていく。

まず、**ステップ1の「聞いて知る活動」**として、ALTやGTの出身国についての話を取り入れる。この話に沿って、HRTは、本トピックで取り上げる単語(国名等)やKey Sentence(I want to go to ○○.Because ~./Where do you want to go?)をカード化して、提示していく。ALTの話とカードの提示により、児童は、「聞いて知る」ことができ、本トピックに関しての期待感や意欲を高めることができるようにする。

次に、**ステップ2の「聞いて繰り返す活動」**として、ALTやGTの出身国だけではなく、本校に在籍する児童や6月に出会った留学生の出身国の国名をカード化して提示する。各国名に対し丁寧に発音の仕方を示す。フラッシュカードでのクイズ形式や、リズムにのってのチャンツ等により、ALTやGTの発音やリズム・抑揚を聞き、真似しようとする中でしっかりととらえることができるようにする。また、コース別の活動を組むことで、自分の自身が無かったところの見直しや練習の時間を確保する。その上で、インタビューゲームを行い、楽しみながら繰り返して会話をを行い、聞いた事柄に対する理解を深めることができるようにする。

最後に、**ステップ3の「聞いて使う活動」**として、実際に友達や先生との関わりの中で、「話して、使ってみる」活動を取り入れる。「パスポート作り」やそのパスポートを使って自分が行きたい国の紹介・尋ねあいのインタビューを通して、「話してみたい・伝え合いたい」という双方向の話す活動をうながすことができるようにし、達成感や満足感を味わうことができるようにする。

3. 目標と1トピックの構成(計3時間)

時	ね ら い	各時間のステップの構成と内容		
1	○ 国名や行きたい国の言い方・尋ね方に慣れる。 ○ 言い方や尋ね方を知り、積極的に言ったり聞いたりしようとする。	<ステップ1> ・ALTの出身国紹介 ・国名 ・Key Sentenceの紹介	<ステップ2> ・ Listen and Repeat コース別活動	<ステップ3> 「国名カルタ」
2 本時	○ 理由の尋ね方・言い方に慣れる。 ○ 理由の尋ね方・言い方を知り、積極的に言ったり聞いたりしようとする。	<ステップ1> ・スキット(理由の言い方・尋ね方)	<ステップ2> Listen and Repeat コース別活動	<ステップ3> インタビューゲーム
3	○ 国名の言い方や行きたい国の言い方・尋ね方・理由の言い方・尋ね方に慣れ、使おうとする。 ○ 自分で内容を選び、進んで友達と関わろうとする。	△ ス テ ッ プ 1 V <ステップ2> Listen and Repeat (国名や行きたい国の言い方・尋ね方の復習) コース別活動	<ステップ3> ・「パスポート作り」 ・「行ってみたい国はどこですかインタビュー」	

4. 本時 平成17年11月9日(水) 5校時 B小学校6年

5. 本時授業仮説

前時までに児童は、国名や行きたい国の言い方や尋ね方に関する表現について知り、ゲームを通してその表現の仕方に慣れてきている。そこで、本時では、それらの表現を使って、「なぜその国に行きたいのか」についての理由の尋ね方・言い方の表現に慣れることをねらいとしている。そのために、まず、導入の段階で Listen and Repeat を行い、繰り返して聞き・声に出すことで、これまで学んだ表現方法の定着をはかる。また、この段階で、コース別の学習を組むことにより、じっくりと表現の方法や発音等の再確認を行ったり、ALT との応答を通してさらに表現に慣れていったりすることができるようにしていく。その上で、インタビューゲーム 1 を設定する。提示された国や理由ではあるが、ALT や友達とのインタビューを通して、行きたい国を尋ねたり、その理由を尋ねたり答えたりするということを繰り返すことができ、児童は、自然に本時での表現に慣れ、自分から進んで話そうとする意欲をもつことができるようになると思われる。

6. 本時 (2/3) のねらい

- 旅行に行ってみたい国はどこかの理由の尋ね方・言い方に慣れる。
- インタビューゲームを通して、友達との受け答えを楽しみ、積極的に言ったり聞いたりする。

7. 準備 国旗カード・センテンスカード・写真カード・インタビューシート・Reflection Card

8. 本時活動の展開

Procedure	活動内容と児童の主な発言	主な発言 (●HRT○ALT)	支援と★評価
Greeting 5min.	1. はじめの挨拶をする。 Good morning R. It's Wednesday.	●Hello every one. ●How are you? ●what day is it today? ○what's the date today?	・お天気チャートのポスター等を活用しながら、日にちや曜日・天気・健康状態の言い方の確認をおこなう。
Activity STEP1 STEP2 25min. コース別	2. スキットを見て、本時のめあてをつかむ。 行きたい国の言い方・尋ねに挑戦しよう。 3. これまでの復習をする。 Where do you want to go to? I want to go to... 4. 理由の言い方尋ね方を知る。 Why? Because I want to see pandas.	○Today's aim is this. ○Let's review. ●O.K. Please listen and repeat. ●where do you want to go to? ○I want to go to China. ●Why? ○Because I want to see pandas. ○Please choose your course. ○●Come on! And practice again.	・前時に学習した国名と Key Sentence を再度提示しながら、発音やリズム・抑揚等に関して確認することができるようにする。 ・本時のキーセンテンスを導入する際にも listen and repeat を繰り返し、表現に慣れるようにする。 ★ALT の発音やリズム・抑揚をしっかりと聞き、真似をして言いながら表現の仕方を確認することができる。 ・しっかりと確認し、自信をもつことができるようにコース別の活動を組む。
STEP3 10min.	5. 「行ってみたい国はどこですかインタビュー」を行う。 Where do you want to go? Because I want to see MATSUI.	○I will show you how to play. ●I want to go to Korea. ●Why? ○Let's start!	・机間指導しながら、言い方・尋ね方の確認をする。 ★ALT や友達との受け答えを楽しみながら、本時の表現に慣れようとしている。
Closing 5 min.	6. 活動を振り返り、Reflection Card を書く。 9. 次時の活動を知る。 10. 終わりの挨拶をする。 Thank you R. See you next time.	●Go back to your seat, please. ●please write your Reflection card. ●That's all for today. ○good job. See you next time.	・Reflection Card を書き終わった児童から、HRT や ALT のところへ行き、簡単な会話を交わし、本時の確認を行うように促す。